

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100323		
法人名	㈱遊子苑		
事業所名	グループホーム遊子苑ながた		
所在地	石川県金沢市長田本町ホ14番地1		
自己評価作成日	平成30日年11月24日	評価結果市町村受理日	平成31年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	平成30年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当GHは金沢駅より近く比較的街中に所在しておりますが古くからの町会が遊子苑ながたを地域密着に繋がるよう開設当初よりご協力いただき今では良好な関係を築いております。利用者の介護度が高くなり本人が望むケアも困難になってきて少しでも出来る事、喜ばれる事を職員皆が共有し考え実践しています。今年は建物内ではありますが利用者からの声があがり竹を切つてのそうめん流しが好評でしたので3回実施しました。他野菜を植えて育てたいと言う利用者には一緒に数種類の苗を買ってプランターに植え水やり、まびきなどこまめに世話をし収穫を楽しませていました。天気の良い日には気軽に散歩、近くの馴染みのスーパーやドラッグストア、衣料店の買い物などにも出かけています。併設している小規模と合同で文化祭の出展や催し物、イベント等連携を図って利用者の行き来しやすい関

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所と地域の付き合いは、町会に加入して町会主催の盆踊りや、近くの神社の獅子舞に参加したり、公園の清掃活動、公民館の文化祭に手作りの作品を出品して皆で見に行ったりしている。日用品やおやつのお買い出しに職員と一緒に近くのスーパーに出かけたり、散歩に出かける人も多い。毎年夏に行うバーベキュー大会には家族の他町会の人たちも集まり盛大に開催している。また、月に一度フロアごとに外食にも出かけている。
食事については、行事食や誕生会、流しそうめん、バイキングなど雰囲気を変えて食事を楽しんだり、10時と15時は、ドリンクとおやつの間となっている。時々、パンケーキ、イチゴ大福、おはぎ、スイートポテト、お好み焼き、かき氷など手作りおやつで楽しむこともある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「楽しく・仲良く・安心して」暮らして頂く事ができるよう、管理者や介護主任が中心となって職員間で色々な情報を共有する事を心掛け本人の意思を尊重しながら実践につなげている。	基本理念、介護理念はパンフレットに掲載されている他、事業所内にも掲示されている。管理者はミーティングや話し合いの折に「利用者本位になるためにはどうしたらよいか」を考え、理念の実践につなげている。また、接遇の研修やアンケート調査等も実践の一環としてとらえ取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りや文化祭、公園清掃等地域の行事に参加している。文化祭には遊子苑として作品を出展している。また他事業所と合同で地域の公民館にて合唱サークルに希望者が参加し、定期的に発表会を開催している。	町会に加入して地域の人たちと交流している。町会主催の盆踊りや、近くの神社の獅子舞に参加したり、公園の清掃活動、公民館の文化祭に手作りの作品を出品して皆で見に行ったりしている。日用品やおやつの買い出しに職員と一緒に近くのスーパーに出かけたり、散歩に出かける人も多い。毎年夏に行うパーベキュー大会には家族の他町会の人たちも集まり盛大に開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に、ホーム便りや運営推進会議、地域のイベントに参加する機会を通して認知症ケアに関する理解を深めて頂けるよう努めている。運営推進会議でも当事業所のサービスについて細かな説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催。その都度ホームの取り組みや近況を報告。避難訓練時には実際に行っている様子を見て頂き感想、意見を聞きサービスの向上に活かせるように努めた。	町会長、民生委員、老人会会長、市役所、地域包括、家族等が参加して平成30年度遊子苑ながらた運営推進会議予定表に基づき二カ月に一度開催している。会議では身体拘束等の適正化の推進、利用状況報告、活動報告、パーベキュー大会、夜間想定避難訓練等が行われ、質疑応答を行いサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回運営推進会議には市の担当者に参加して頂き、事業所のサービスや取り組みについて積極的に伝え理解を深めて頂くと同時に、質の向上に向け意見を頂いている。	介護保険制度のことで不明のことがあれば介護保険課にその都度問い合わせ聞いている。この他今年度は転倒事故が発生したため金沢市に事故報告を行っている。金沢市主催の研修には努めて参加して市との連携を図っている。また、生活保護を受けている利用者もいて担当のワーカーと連携をとったり、事業者連絡会のグループホーム部会に参加して市から行政説明や指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で身体拘束防止マニュアルを作成。研修に参加した職員は学んだことを、ミーティングの場で発表し正しく理解できているかの機会を設けている。また玄関や出入り口の施錠は行わず、利用者が外出の希望があれば職員が同行し利用者の気持ちに添えるように支援している。	身体拘束防止のマニュアルを整備して研修は9月に外部研修、10月には内部研修を実施し、身体拘束等の適正化のための対策検討委員会は毎月開催して拘束をしないケアに取り組んでいる。センサーマットを使用している利用者があり、法人として行動抑制につながる可能性があると考え家族から使用についての同意をもらっている。建物の施錠は夜間防犯上の観点で実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し学んだ事をミーティングの場で発表し正しく理解できるような機会を設けている。管理者は早期に気づくことができるよう日頃から不適切ケアに当たっていることがないか注視し職員の相談にのれるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も対象となる方がいる。成年後見人制度のセミナーや研修に参加し、制度に関する理解や情報を深めている。月1回成年後見人と面談をし状況報告を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には事前に当事業所に見学に来ていただき家族や本人の相談を伺えるように努めている。また契約時にも十分な説明を行いその都度不明な点がないかを確認を取りながら理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度の家族会でバーベキュー大会を行い多くの家族に参加していただいている。同時に運営推進会議も開催し家族の意見を地域の方や外部にも表し運営に反映している。また日頃の面会時にも家族より意見や感想を早く聞けるように努めている。	苦情の体制は整備されて周知も行われ、意見箱も設置してあるが特に苦情は寄せられていない。今年度は家族から介護記録の情報開示の請求があり開示した事例が一件あった。家族の意見や要望は職員が家族来訪時に時間をとりよく話をすることで聴取している。職員は家族とフランクに話し合えるように努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はシフト勤務に入り普段から積極的にコミュニケーションを図っており、職員の意見、提案を聞き各フロアの実践につなげ反映している。また代表者もミーティングに参加し現場の意見を運営に反映している。	管理者は夜勤も含めて他の職員と同じ勤務についているので職員の意見や提案をいつでも聴取している。また、法人本部も同じ建物内にあるため代表者とも職員は気兼ねなく話すことができている。法人全体でモデル行動委員会を設置して、サービスの質を高めるための計画を立て一次評価二次評価を行い代表者に提出する取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者と会議以外にも常日頃密に連絡をとっている。また現場の利用者と話しをしながら現場の状況や職員の勤務状況の把握に努めている。職員のスキルアップや意欲向上の為に研修費の免除や資格取得者には手当支給に努めている。チャレンジシートを使用しサービスの質の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に合わせ研修参加の確保に努めており研修発表の場を設けている。またサービスの質の向上に向けチャレンジシートを使用しフロアや個々で目標を定め実践に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れや他グループホーム共同で行う合唱サークル、その他研修の参加によりネットワークづくりに努めている。またGH部会研修に管理者が参加し他施設との交流を図り互いにサービスの質の向上の為に連携している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の情報をしっかり聞き取り入居時には本人とゆっくり関わり不安な思いがないか表情や会話から情報を知り職員間で情報を共有し安心して過ごしていただけるよう支援方法を検討し実践に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には安心できるよう入居当初の本人の様子や状況をこまめに電話等でお伝えし不安なことに耳を傾け家族との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援の意向の確認をしっかりとるように努めている。現在の生活状態で出来る事や継続の必要性、また課題を抽出し本人、家族が合意の上、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を自分から率先し行えるよう職員がさり気なく一緒に行動し暮らしを共にする関係づくりをしている。また家事等では教えていただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など家族とのコミュニケーションを図り家族に希望があれば食事会やレクレーションなど気軽に参加して頂きその時の本人の思いを家族、職員共に共有している。また面会が来やすいよう環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会もいつでも来られ、本人の大切にしてきた友人や近隣の人も定期的に訪れられるよう行事等を面会時にお知らせしている。また気軽に来苑できるような雰囲気づくりに努めている。	家で畳の生活をしてきた人にはベッドを撤去して布団で寝てもらったり、入居後も家の仏壇参りや掃除のために帰る人や、畑づくりをしていた人のためにプランターでの野菜作りをしたりと様々なニーズに応えながら関係継続の支援を行っている。事業所の取り組みとして個別の外出支援を行っており、その一環として買い物から実家へ服を取りに帰ったり、遠方に住む兄弟に会いに行く計画等も立てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士がお互いに居室を行き来しをし居室で話をしたり歌を歌ったりしている。また共有フロアの座席の位置も職員がコミュニケーションの橋渡しを行う事で自然と皆がそこにいる事が多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて家族からの相談を受けたり、受け入れ先を探す等の支援を行うことができる体制となっており、契約時、退居時にはそのことをご家族にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士の日頃の会話やかかわりの中から、本人の希望、意向の把握に努めている。本人からの聴取が困難な場合でも、本人の行動や表情から思いをくみ取れるように努め、自分で知り得た些細な情報も職員間で共有し本人本位になっているか検討している。	利用者ひとり一人の表情を注意深く観察したり、笑顔でゆっくりと関わることによって利用者の思いをつかむように努力している。また、ひとり一人のサイン例えば机をたたく人は話を聞いてほしかったり、いつも座っている人がフロアから出ようとするときは排便のサインだったりとこのことを日々の話し合いや申し送りでも共有してそのひと本位の理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし等の情報の把握、モニタリング、アセスメント内容を職員間で共有しその方らしさの理解に努めている。またご家族からの情報や本人の日頃の会話や行動を観察している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と職員と一緒に過ごしその方の出来る力を最大に活かせるよう出来る事などは積極的に情報を発信し職員間で共有している。また日々の活動の変化にも注視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを実施。担当職員が中心となり、本人やその他職員が思いや意見を出し合える場を設けている。カンファレンス、職員ミーティングでの意見や、ご家族からの要望、本人の思いを基により良い暮らしができるように努めている。	独自の課題分析シートを用いてアセスメントを行い計画作成担当者がミーティング時にサービス担当者会議を開催してプランの周知を行っている。モニタリングは3か月に一度行い大きな変化がなくても1年に一度は計画を更新している。記録は介護記録1(バイタルやサービス提供記録)と介護記録2(ケース記録)、排せつチェック表がある。介護記録2はケアプラン2表の生活上の課題No.を記入して記録することになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はプランに則した本人との関わりのなかで本人から発した言葉を気づきとてあげるようにしている。またそこから本人は何を望んでいるのかを職員間で話し合い情報を共有し実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に合わせて個別支援できるよう可能な限り市内の馴染みの店や買い物支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭、夏祭り、合唱サークルに利用者と共に参加しており、活動の応じて入居者が楽しめるように支援をしている。買い物等地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族にかかりつけ医を選択して頂いている。状態に変化があった場合はその都度相談し、指示を受けている。協力医とは何でも相談できる良好な関係を築いており、協力医の主催による勉強会を定期的に行っている。	近くの内科医院が協力医療機関で往診してくれるのでかかりつけ医は家族の希望で協力医療機関に変更している。往診の日は利用者のバイタルのデータや相談したいことをあらかじめ準備して医師に渡している。往診の時には施設の看護職員も同席してより細かく利用者の状況を伝えている。また医師は職員に対して医療管理の勉強会をたびたび開催されている。歯科医師も往診してくれ、こちらも職員に口腔ケアの指導をしてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師が常に連絡を取れる体制にあり、日頃の些細なことも報告し合っている。受診が必要と思われる利用者の方には可能な限り看護師が付き添う形をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早急に介護サマリーを作成し病院担当者に利用者情報が伝わるようにしている。退院後もスムーズに当苑での生活ができるよう入院中も病院関係者との情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針を説明し家族より同意を得ている。また重度化した場合でも今後についての生活をどこで迎えるか家族と話し合い事業所としてできることを十分に説明しながら家族の要望を確認している。要望の変更時も話し合いをし柔軟な対応ができるよう努めている。	この一年の間は看取りはないが、過去には看取った実績はある。利用者18名中要介護3以上の人が14名おり重度化は進んでいる。2人介助をしている利用者は4名いて入浴や体位交換の場面等で職員の負担は増大しているが外部の訪問マッサージや日常的にできる動作を継続することで機能低下の防止に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており職員全員がマニュアルを元にシミュレーションを行っている。まだ年に一回ほどしか実践できてないが定期的にまた行えるようにしていきたい。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時に備えマニュアルを作成し、全職員が一読。新しい職員が入った時などに合わせて救急車依頼の練習を行うなど、緊急時に備えている。	マニュアルを周知する取り組みとして、ミーティングで「救急車依頼の練習」などロールプレイ形式のシミュレーションを行っている。マニュアルの見直しは、管理者が定期的に毎年11月ごろに行っている。また、必要があれば、随時変更している。平成30年の救急救命講習会に、職員1名を参加させている。毎年、職員を参加させ、緊急時の対応への意識を高めるよう取り組んでいる。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関とは密に連絡を取り、月に2回の訪問診療だけでなく必要に応じ緊急時の対応も夜間、土日でも安心して行える関係である。又担当医による勉強会も定期的に行っている。	協力医療機関は、近隣にある内科医院と市内の歯科医院である。近隣の医院は、月2回往診してくれ、緊急時の対応も可能で、1年を通して24時間連絡が可能である。すぐ近くの医院なので、利用者に状態の変化があった場合、夜間帯であっても往診してくれることが多い。バックアップ施設は、同じグループの小規模特別養護老人ホームである。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	併設のケアホームと合わせ、各フロアに1名ずつ計3名が夜勤者として配置。常に協力して対応にあたる体制となっている。緊急連絡網によって近隣に住む職員が速やかに駆け付けられる体制となっている。また管理者、主任が状況に応じて対応に駆け付ける事もある。	2ユニットで2人夜勤である。また、併設している小規模多機能にも1名の夜勤者が勤務している。夜勤者だけになる時間帯は、19時40分から翌朝7時までである。夜間帯に利用者の状態に変化があった場合は、ホームの看護師に連絡をし、看護師から協力医療機関の医師へ連絡が入り、往診して指示を出してくれる。この1年では夜間帯に救急車を呼んだことはないが、救急車を呼んだ場合、一人の職員は本人の側で見守り、もう一人の職員は家族への連絡、救急隊に渡す必要なファイルの用意などを行う。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議時や他定期的に避難訓練を実施している。訓練結果や講評についてはミーティングにも報告している。	毎年3月と9月に防災訓練を実施している。今年度は9月21日に総合訓練を夜間想定で実施している。運営推進会議と同じ日に行い、そのため町会長、町会副会長、民生委員、市職員、家族なども参加した。また、訓練には必ず消防設備点検業者が参加し、訓練後に講評をしてもらっている。消防設備点検は、年2回実施している。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	緊急時に備え、食料や飲料水等の非常食を備蓄。職員間で備蓄場所の保管場所を周知し災害時には防災マニュアルに沿って行動することで、利用者の安全確保に努める。	「非常災害対策マニュアル」が作成され、「金沢市防災マップ」や「職員連絡網」、「緊急時の連絡体制」、「地震の心得12か条」などが綴られている。マニュアルは、管理者が年1回定期的に点検を行い、また随時必要があれば見直している。マニュアルの中には「持ち出し用処方箋」も入っており、直近の処方箋の入れ替えを処方箋を受け取った職員に担当させることで、マニュアルの周知に繋げている。また管理者は、ミーティング等で目を通すように話している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重しプライバシーに配慮している。その方に応じた言葉かけにこころがけトイレや入浴なども羞恥心に配慮している。	「認知症ケアマニュアル」が作成されている。その中に示してあるように、「待ってね」「あとで」と後回しにする対応を最小限にとどめ、本人が言葉や行動で訴えているその「時」に、本人と向き合うよう努めている。また、「心理・行動症状」など本人の行動の裏にある真のメッセージを汲み取る努力をしている。利用者個々のサインを職員で共有化し、見逃さないように心がけている。あるいは、排泄支援に関しては、小声で話したり、聞こえない方には紙に書いたり、伝え方を工夫している。また、車イスの方は、トイレの鍵が掛からないため、トイレの中にカーテンを設置している。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者の方が思いや希望を気軽に伝えて頂けるように雰囲気作りに努めている。職員の声掛けや行動にも無理強いすることのないように行っている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の思いを大切に、可能な限りそれぞれの方のペースに合わせた生活が叶えられるよう支援している。野菜づくりの好きなかたにはプランターで野菜を育てている。また買い物が好きなかたには一緒に買い物に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時に合った物を一緒に考えながら選んで着て頂けるよう支援している。定期的に出張理容を依頼している。衣類や髪の乱れもさり気なくお伝えし手伝ったりご自身で整えていただいている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者同士、コミュニケーションを取りながら食材の下準備をしたり、職員と共に好みの具で味噌汁づくりをして流し台に立って頂き食事が楽しみになる支援をしている。また下膳や片付け、食器拭きなど利用者自らが率先行っている。	その日のメニューは、日勤者が冷蔵庫の中を見て、また利用者の方々のリクエストを聞いて決めている。食材の注文は、ネット注文し、配達してもらっている。食事提供後には、メニューが重ならないように、食事提供表を作成している。食材以外のおやつや飲み物などを利用者と一緒に買い物に出かけている。食事を楽しめるように、きざみ食の方にも、盛り付けに工夫し、おいしく見えるように配慮している。食事中は、その方に合わせた話題で、会話が弾み、食事を楽しめるよう雰囲気づくりに努めている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の低下がみられる利用者にはなるべく好みの物を取り入れ意欲低下に繋がらないよう工夫し提供している。刻み食やミキサー食の盛り付けも美味しそうに見えるよう工夫し必ずメニューや具材を本人にお伝えしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けをし、その方の能力に合わせて支援を行っている。義歯の方には定期的に消毒を行い清潔を保持、また必要に応じ訪問歯科を利用し歯科医に相談や口腔ケアのポイントを教わり口腔内の清潔保持に努めている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用して、一人一人の排泄パターンの把握に努めている。介助が必要となっても、トイレでの排泄を長く続けられるよう、職員二人介助にて便座に座っていただいている。	利用者全員を対象に、排泄チェック表を作成して、利用者の健康状態を把握している。また、排泄パターンを把握し、介助の必要な方に対して、タイミング良い声かけを行うことで、失敗を防ぎ、可能な限りトイレで排泄してもらうように取り組んでいる。そのため、必要な方には二人介助で、便座に座ってもらっている。便座に座ることで、自排尿が可能となっている方もいる。パッドやトレーニングパンツは、その人に合ったものを注文する。また、その人に合ったかどうかをミーティングで検討している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医とも相談しながら、適度な運動や水分補給、必要に応じて内服を行うなど、自然排泄と便秘予防に努めている。便秘予防にヨーグルトや牛乳、繊維の多い食材を食事時に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者と一緒に外出時によもぎ、かりん、しょうぶなどを取ってきたものを使用し香りを感じられるよう工夫している。車いすの利用者にも出来るだけ湯船に入っていたり出来るよう職員2人介助にて入浴をして頂いている。また毎日入浴希望者には可能なかぎり入浴して頂いている。	入浴剤や柚子湯、しょうぶ湯、かりんの実を入れたり匂いを楽しんでもらうこともある。介護度の高い方にも、可能な限りお湯に浸かって欲しいので、必要な方には二人介助で行っている。また、お風呂は1対1の介助なので、周りに人がいるとほとんど何も言わない方が、お風呂介助時には何やかんやと話をすることもいる。自立度の高い方には、声掛けや見守りで、ゆっくりと入浴してもらっている。入浴を拒否する方には、声掛けする職員を変える、時間をおく、日を変えるなど無理強いはいしない。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活状態や顔色、動作をしっかりと見ながらまた、健康状態にも留意している。本人に声掛けを行った上で安心して休んでいただけるよう部屋の温度設定や環境を整えている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬の薬のセットをする時などお一人おひとりの薬の情報理解に努めている。またその方に応じた内服の仕方を職員間で情報を統一しスムーズに行えるよう工夫している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞たみな、お茶のバック詰めなどは職員があまり入らなくても利用者同士で自然と役割が出てきている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日には希望に沿ってドライブに出かけたり散歩に出かけられるよう支援している。新聞にて金沢港に豪華客船が寄港した記事を利用者と一緒につけ客船を見に行ったり、花見の時期には新聞の花見の写真をみて後日くりから不動産へドライブにいくなどのきっかけとなった。	近隣に大型ショッピングセンターやスーパーなどいくつもあり、ドライブを兼ねて買い物に出かけている。地域の行事の合唱と芋ほりに、同じグループの施設と一緒に参加している。その他、文化祭、盆踊りなどの地域の行事にも参加した。またドライブを兼ねて、花見や紅葉狩り、外食などに出かけている。そして、個人的な買い物に近くのスーパーやホームセンターと一緒に出かけたり、郵便局まで付き添ったりして、外出を支援している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が困難である為お金を所持していない方が多いが家族や本人の要望があれば少しのお金は持っておりお金を所持している事で安心する方や買い物を自分のお金で払いたい方には買い物支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛に年賀状や手紙が届いたりやりとりをしている。本人の希望に応じて家族や友人に年賀状づくりの支援をしている。また気軽に家人や友人から電話がかかり電話での話を楽しませている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と一緒に季節の花を活けたり、飾りつけをシーズン事に行っている。整理整頓に注意し掲示物にも気を配り気持ちよく利用していただけるように努めている。エアコンの風など直接当たらないように生地を間接的に取り込み不快にならないよう工夫している。	リビングや廊下の壁の飾り付けは、2か月間隔で変えられ、外出した際の写真も掲示され、季節を感じられるように取り組んでいる。今年度は、本物の鯉のぼりをリビングに飾った。日中はリビングで過ごす方が多く、そのため座る場所で喧嘩にならないよう相性にも配慮している。また、車椅子の方やシルバーカーの方など歩行が不安定な方のため、安全な動線を確認するよう配慮している。2つのユニットは行き来しやすいようになっていて、仏壇をお参りする方もいる。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれのお気に入りの場所がありその場所でテレビや新聞をみてくつろがれている。また気の合った利用者同士で世間話したりしている。またそこでうたた寝をしたり思い思いに過ごされている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人・ご家族と相談の上、小物や家族の写真等を飾り誕生日の色紙なども置いている。またレイアウトにも配慮し、安全に居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。また居室内で快適に過ごして頂けるよう室温や調光、季節にあった布団等に配慮している。	馴染みの物を持って来るよう家族には話している。アルバムや写真、自分の手作りの品などを持ち込んでいる。自宅で床に布団で寝ていた方には、ベッドを撤去し、フローリングに布団を敷いて就寝してもらっている。居室は基本自分の好きなように過ごしてもらっている。ただ、介助が必要な方には、清潔保持のため居室の掃除を手伝っている。利用者の中には、タオルや下着を居室で干して、自分でたたむなど、自分で管理している方が2名いる。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの各所に手すりを設置。安全に歩行又は下肢筋力のリハビリなどができるよう職員が側に付き添い自立につながるように支援している。車いすやシルバーカーなど使用時以外の置き場所に配慮し導線上の妨げにならないように注意している。		